

わたしたちのまちに戦争があった

非核・平和 第46回

空襲展

2025年

8月

23日(土)

24日(日)

9:00~17:00

主な催し物(多目的ホール)

23日(土)

●9:50~11:00

『中学生ピースメッセンジャー』 広島平和記念式典参加報告

●13:30~15:00

平和講演会

『木村草太先生に聞く! 憲法が変わる時、
私たちの“暮らし”はどうなる?』



©八田政玄

きむら そうた

木村草太さん

東京都立大学教授。専攻は憲法学。平等権・差別されない権利、政教分離、憲法訴訟論などを研究。ニュース番組のコメントーターやラジオ番組への出演等、多方面で活躍する。

24日(日)

●10:30~11:00

平和紙芝居

『二度と戦争しません』 出演:劇団伊勢

●13:00~15:00

三重県と広島県の高校生による活動発表会(三重県主催)

・庭田杏珠さんによる特別講演

・三重県立伊勢高等学校による取組発表

・広島県立安芸府中高等学校による取組発表

・高校生と庭田さんによる意見交換

●16:00~16:30

平和紙芝居

『竹内浩三ものがたり』 出演:伊勢学園高等学校演劇部

特別展示(福祉健康センター1階)

●今日マチ子が描く、少女たちの「戦争」

漫画家の今日マチ子さんが沖縄のひめゆり学徒隊に着想を得て描いた長編漫画『cocoon』の展示を行います。

『cocoon』は今夏、NHKの戦後80年特集アニメとして「cocoon ～ある夏の少女たちより～」(声の出演:満島ひかり、伊藤万理華)が放映予定。

本展では漫画の印象的なシーンをパネル展示し、沖縄戦や戦時下の少女たちや暮らしを振り返ります。



●庭田杏珠「記憶の解凍」[24日(日)のみ](三重県主催)



AI技術や当時の資料、戦争体験者との対話をもとに、被爆前後の日常の白黒写真をカラー化する「記憶の解凍」。その取り組みを高校時代から続ける庭田杏珠さんのカラー化写真パネルを展示します。

『AIとカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争』(共著、光文社新書、2020年)で「広島本大賞」など受賞。2025年8月、映画『記憶の解凍』公開。

展示物

戦時中の写真、伊勢空襲の記録、焼夷図、
憲法パネル、ゼロ戦タイヤ など

常時開催企画

昔の遊び体験、折り鶴コーナー、スタンプラリー(お子さま向け)
缶バッジ作成、平和うちわ作成、平和へのメッセージ など

★展示物や企画内容は変更する場合があります。

入場無料

会場 ハートプラザみその

(伊勢市御幸町長屋2767)



主催: 非核・平和第46回空襲展実行委員会 共催: 伊勢市・伊勢市教育委員会 後援: 三重県教育委員会

〈お問い合わせ〉 非核・平和第46回空襲展実行委員会事務局 伊勢市勢田町613-13 伊勢地区労継承センター内
TEL 0596-25-1697 (月~金 13:00~17:00) <https://kusyuten.yu-nagi.com/>



伊勢市空襲を

記録する会会報

第49号

わたしたちのまちに

戦争があった

私たちが住むまちにも、かつて戦争がありました。

昭和19年秋、米軍はマリアナ諸島に戦略爆撃機B29の基地を完成させると、日本への空襲を本格化させました。伊勢市(当時は宇治山田市)への空襲は、昭和20年1月14日に外宮神域への投下が始まり、その後も断続的に続きました。6月15日の空襲では神戸製鋼山田工場と二色町が攻撃を受け、焼失家屋は48戸、死者は14人を数えました。

特に、7月29日未明の空

襲は大規模なもので、伊勢市

の上空を米軍のB29が飛来し、次から次へと焼夷弾を投下し、市内は一夜にして焼け野原となりました。この大空襲により市街地の約60%が焼失し、市内の焼失家屋は4,859戸、死者は75人、負傷者は117人に及んだと記録されています。

戦争が終わり、80年が経過します。今を生きる私たちは過去から学び、平和の尊さについて考え、平和な社会を後世へと引き継いでいかなければなりません。二度と同じ過ちを繰り返さないように。

空襲体験談

過去の空襲展の来場者アンケートで寄せられた体験談を紹介します。

食糧のない時、外宮さんの池で男の子たちは食べるものがなかったのだ、えしさんにもいけないことだけど、怒られず許してもらえたそのハスの実、甘くてとてもおいしかった。1945年昭和20年、1〜7月十数回の空襲を受けた同年7月28日深夜から29日未明にあった空襲で、我が家は焼かれてしまった。29日朝、明るくなつてから逃げた父は消防でい



なくて、母は赤子を負い、兄と弟、私と三組が1列にならんで、母が先頭で自転車を押しわずかな荷物を積んで、私は子供用の自転車に斗缶を積んで外宮さんの方に逃げた。市役所の裏のちんちん電車の道を外宮さんの前広場に逃げた。ちょうど市役所と明倫小学校の運動場前の道を逃げていたら、そこにはばらばらと真っ赤に焼けた鉄の塊が落ちてきた。私たちの間に落ちてきたのでとても怖かった。前にもすすめず後戻りもできず、あの恐怖は忘れられない。じっとしていても直撃を受けるし、その時は神様に助けてと叫びました。私は自転車をはって兄弟に声をかけ、兄弟たちは母を追っていきました。兄弟に気を付けてと叫びながら、ぎゃくもどしたその時、私たちの

間にまた真っ赤に焼けた鉄の塊が一つずつ落ち、そのあとバラバラと落ちてきた。幸い直撃はうけなかったが、前にも進めず後ろにも戻れず、じっとしておれず、小学生の子どもがその一瞬の判断をする怖さ。幸い無傷で済んだが、あの一瞬は本当に怖かった。戦争は嫌です、平和の世界をねがいつつ。

(第40回アンケートより)

みなさんから空襲や戦争の体験談を募集しています。お寄せいただいた体験談等は、空襲展当日の冊子等に掲載させていただきます。

また、戦争中の生活の記録写真、スケッチなどお持ちでしたらご連絡ください。

【連絡先】

伊勢市勢田町613-13
伊勢地区労働継承センター内
伊勢市空襲を記録する会
電話・FAX
0596(25)1697